

令和5年度

品川区立 伊藤学園

研究主題

「義務教育学校において、

児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫」

— 指導と評価の一体化を図った授業改善 —



令和6年 3月

「義務教育学校において、児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導方法の工夫」

～ 指導と評価の一体化を図った授業改善 ～

指導したことを確実に評価しているだろうか、評価したことを指導に生かしているだろうか。伊藤学園では、常にここに立ち返って授業改善を進めています。

授業を行った際に子どもたちに授業のねらいとする資質・能力が身に付いたのか、それを着実に把握することが学習評価です。今年度の研究を通して、教師の授業改善を図るとともに、子どもたちが「自律した学び」に向かうには、義務教育学校における系統的な学習評価の在り方を定め、指導と評価の一体化を図った日々の授業がとても大切であるということが分かってきました。また、教科と市民科を関連付けながら研究を進めることで、指導と評価の一体化はカリキュラム・マネジメントにおいても重要な役割を果たしていることが分かりました。さらに、1人1台端末の活用に積極的に取り組むとともに、子どもたちの資質・能力を効果的に伸ばす学習様態の考察を行いました。

今年度も多くの講師の先生方にご指導ご助言をいただき感謝申し上げます。伊藤学園の研究が日本の義務教育学校を牽引するものとなるよう、さらに精力的に進めてまいります。

校長 野口 大和

研究の概要

①主題設定の理由

本校では、義務教育学校の特性を生かし、第1学年から第9学年まで系統的な教科指導を目指し、研究主題を「義務教育学校において、児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫」とした。研究主題をもとに教科ごとに研究構想図を作成し、各教科で研究を深めている。また、学習指導要領改訂に伴い、さらなる学習評価の充実を目指し、副主題を「指導と評価の一体化を目指した授業改善」と設定し、3年間かけて研究を進めていく。

②研究方法

- 年間2回の研究授業
 - ・教科分科会による研究授業（理科・美術・音楽・保健体育）
 - ・市民科分科会による研究授業
- 一人一本の略案付き研究授業
- 相互授業参観

研究組織

分科会構成

学年 \ 日程	6月 研究授業①								9月 研究授業②		
1年	国語	算数・数学	理科	社会	英語	図画工作・美術・技術・家庭	音楽	体育・保健体育	特別支援教育	市民科（特別支援教育）	(低学団) 市民科
2年											
3年											
4年											(中学団) 市民科
5年											
6年											
7年											(高学団) 市民科
8年											
9年											
	全学団による研究授業								全学団による研究授業		


研究授業 市民科分科会

市民科分科会テーマ


「豊かな人間関係を築くためのコミュニケーション能力の育成」

本校の研究主題「児童・生徒の資質・能力を効果的に伸ばす指導法の工夫」にある“資質・能力”の中でもコミュニケーション能力に重点を置き、市民科の学習として、この能力を高めるための工夫をしていくことが大切であると考え。市民科で培った能力を、各教科で活用し伸ばすこと、または各教科で必要としている能力を市民科で身に付けることが、本校の研究をより深めていくと考え、分科会テーマを設定した。


低学団分科会

学年	第2学年	指導者	高根 七海子
単元名	自分の考えを生かしてよりよいクラスに		
領域	自治的活動領域	能力	自治活動能力
単元のねらい	話合いの基本ルールを守り、自分の意見を言うことができる。		
本時のねらい	自分の意見を持ち、話合いの決まりを守りながら、話合いを進めることができる。		
学習内容	①司会グループの紹介とめあてや 議題「スポーツ大会をひらこう」の確認。 ②出し合う：自分で考えてきた意見を出し合う。 ③比べ合う：出した意見を合体させるなど、意見を比べ合う。 ④まとめる：出た意見をまとめる。		
成果と課題	○司会グループと事前に計画を立て、話合いの流れを共有することで、話合いをスムーズに行うことができた。 ○事前に学級会ノートを書き、最初に隣同士で話し合わせ、一人一個の○を黒板に貼ることで、どの児童も自分の意見を示すことができた。 ●話合いのまとめ方は、児童だけでは難しいので、教師がまとめ方の提案をした方が良かった。 ●発言が難しい児童に対しては、事前に声を掛け「出し合う」の段階で先に意図的に発言できるようにしておくなどの配慮が必要だった。		


中学団分科会

学年	第5学年	指導者	三葛木 栞
単元名	相手を認めることの大切さ		
領域	自治的活動領域	能力	秩序形成能力
単元のねらい	誰に対しても差別することなく、相手を尊重して行動することができる。		
本時のねらい	いじめ問題の解決について、話合い活動を通して自分の考えをもつ。		
学習内容	①前時の活動を振り返り、本時の流れを確認する。 各班でテーブルホスト2名を決める。 ②いじめ問題の解決のためにできることを話し合う。考えたことは付箋に書き、班の中で発表した後、各班の画用紙に貼っていく。 ③時間になったらホストを残して他の班へ移動し、2回目の話合いを行う。 ④自分の班に戻り、班と全体とで話合いの成果を共有する。 ⑤活動を振り返り、自分の考えをまとめる。		
成果と課題	○ワールドカフェ形式で話合いをしたことで多くの意見に触れることができ、一人一人の考えの幅を広げることができた。他の班から移動してきた児童の意見を聞き、「自分たちでは気付かなかった意見を知ることができてよかった。」と振り返る児童も見られた。 ●ロイロノートの共有ノート機能を使うなど、より効果的な話合いの方法を検討していく必要がある。		

高学団分科会

学年	第8学年	指導者	松岡 修平
単元名	主張する技術 「桃太郎」の鬼退治		
領域	人間関係形成領域	能力	自他理解
単元のねらい	アサーティブな表現を使い、多様なコミュニケーションにおける手法を身に付ける。		
本時のねらい	一つの物事を、さまざまな側面から捉えることの大切さについて考えることができる。		
学習内容	<p>①道徳の教科書を用い、考え方や立場の異なる者同士が理解し合うことについて考える。</p> <p>②「桃太郎の村人の立場」と「鬼の子供の立場」を考え、本当の「めでたし、めでたし。」になるためには、どのような考えや行動が必要なのかを班で話し合い、発表する。</p> <p>③本当の「めでたし、めでたし。」となるような童話・桃太郎の結末を考える。</p>		
成果と課題	<p>○生徒一人一人が、様々な物語を考え、多面的に考えることができた。</p> <p>○身近である桃太郎という題材から、自分のことに置き換えて考えることができた。</p> <p>○スライドと板書を効果的に活用することで、テンポよく授業を進めることができた。</p> <p>●道徳の内容を扱うのであれば、5時間構成中の3時間目ではなく2時間目に扱い、生徒の心情に沿って内容を発展させていくことが大切である。</p> <p>●生徒同士の考えを共有する時間が少なかったため、時間配分を考える必要があった。</p> <p>●ロイロノートの提出箱を活用し、幅広い意見や考えを集約することで、短い時間で共有することが可能となる。</p>		

特別支援教育分科会

学年	6組（第7～第9学年）	指導者	峯 和歌子
単元名	集団の一員として ～学芸発表会を成功させよう～		
領域	人間関係形成領域	能力	集団適応能力
単元のねらい	集団の中で自分の役割と責任を考えて行動することができる。		
本時のねらい	自分の役割を自覚しながら、合唱練習ができるようにする。		
学習内容	<p>①学芸発表会の目的や事前学習で確認した心構えを思い出す。</p> <p>②事前学習で考えた、自分の役割を確認する。</p> <p>③パート練習を行う。</p> <p>④グループごとに歌を発表する。</p> <p>⑤練習をしていて感じたことを共有する。</p>		
成果と課題	<p>○自分の課題を把握するために使用したカードのデザイン、様式が効果的だった。</p> <p>○生徒一人一人が自分の役割をしっかりと確認することができていた。</p> <p>●教員が課題を明確に提示することや、自己評価をワークシートなどでしっかりと見取り、次の学習へと生かしていくことが必要である。</p> <p>●個別指導計画につなげ、生徒の成長を見取ることが大切である。</p>		

教科分科会

国語	思考力・判断力・表現力を伸ばす「表現すること」の授業の工夫～ICTの活用～
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思考を促すための活用 ・ICTを活用した、交流活動の充実 ・意見交換を活発にするための思考ツールの活用 ・ICTによる授業実践の記録 ・指導と評価の一体化のためのICTの活用
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ学習での意見交換が活発になり、学び合いが促進された。 ○児童生徒の学習成果物を適時評価することができた。 ●他校の活用事例を収集し、本校で生かす流れがなかなか構築できなかった。 ●ジグソー学習についての研修を受講し検証したところ、ICTでの課題提示について、子どもたちが探求的に思索をめぐらせて課題解決に取り組んでいくレベルには達していなかった。

算数・数学	3観点評価の適切な評価方法と児童・生徒の学び合いを重視した効果的な指導方法の確立
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・すすんで考えたいくなる教材の工夫 ・問題解決のプロセスを意識させる工夫 ・ICTの活用（ロイロノートでの意見共有等の活動） ・少人数指導の効果を高める、前期課程・後期課程の枠を超えた教員間の指導観の共有 ・主体的に学習に取り組む態度を適切に評価するための方法の検討・共有
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○座席やグループを指定せずに自由に意見を交換するスタイルで授業を行ったことで、より他者との考えの違いに触れさせたり、問題解決のプロセスの多様性を意識させたりすることができた。 ○身近な問題を設定したことにより、課題意識をもたせることができた。また、ロイロノートを使用して各班の考えを共有したことで、比較・検討がしやすくなり、学びを深めることができた。 ●自己の課題を認知し手立てを考えるうえで、自力解決に必要な時間の長さを習熟度別で考えていく必要がある。 ●主体的に学びに取り組む態度の評価をどのようにしていくか、教員間で共有していく必要がある。

理科	学習意欲を高め、科学的思考力を育てる指導の工夫
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・興味・関心を高めるための教材、教具の研究 ・事実と既習事項を関連付け、論理的に考える授業 ・観察・実験の目的を明確にした指導と適切な評価の工夫
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○興味・関心を高めるために身近な材料を用いて教材、教具の研究を進めることができた。 ○観察・実験結果をもとに考察をし、論理的に考える授業に取り組むことができた。 ●考えを自分の言葉で文章にすることをより支援していく必要がある。 ●児童・生徒に応じた個人内評価の充実を図っていく。

社会	発問や課題を通して主体的な活動を促す指導の工夫
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT・タブレット端末を活用した授業展開の推進 ・話し合いや意見交換の機会の充実 ・学習の成果の振り返りやまとめの時間の充実 ・指導改善に生かすための評価の充実
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ICTを活用して資料提示や課題設定をしたことで、児童生徒の主体的な思考を促す教材を提示することができ、児童生徒の主体的に学びに向かう力を高めることができた。 ○ポートフォリオを作成し学習の成果を振り返ることで、社会が抱える課題に対して、自分ごととして捉え考えようとする児童生徒が増えた。 ●話し合い活動では、他者と協力して意見交換ができたが、論点がずれてしまうことがあった。 ●学習の成果物から主体性を見取ることはできたが、より主体的な活動を促していくための授業改善にどのようにつなげていくか検討していく必要がある。

英語	主体的に英語を学ぶ児童・生徒の育成 ～指導と評価の一体化を目指して～
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が確かな知識や技能を身に付け、積極的にストレスなく授業に参加できるように、音の聞き取りから取り組むスモールステップを意識した段階的な指導を行う。 ・ペアやグループ活動の方法を検討し、児童・生徒が主体的に取り組む工夫をする。 ・児童・生徒の学習到達度を複数の教員で共有し、指導方法の検討を随時行う。
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ESAT-Jの学校平均スコアが東京都の平均より2年連続で高かった。 ○視覚教材を多く使用し、「わかりやすい」授業を行った。iPadを使って、児童・生徒の興味関心が湧くような教材を使用したことで、主体的に学べる授業を展開することができた。 ●コミュニケーションに対して受け身な児童生徒が多く、自ら意見を述べることへの積極性を伸ばす手立てを考える必要がある。

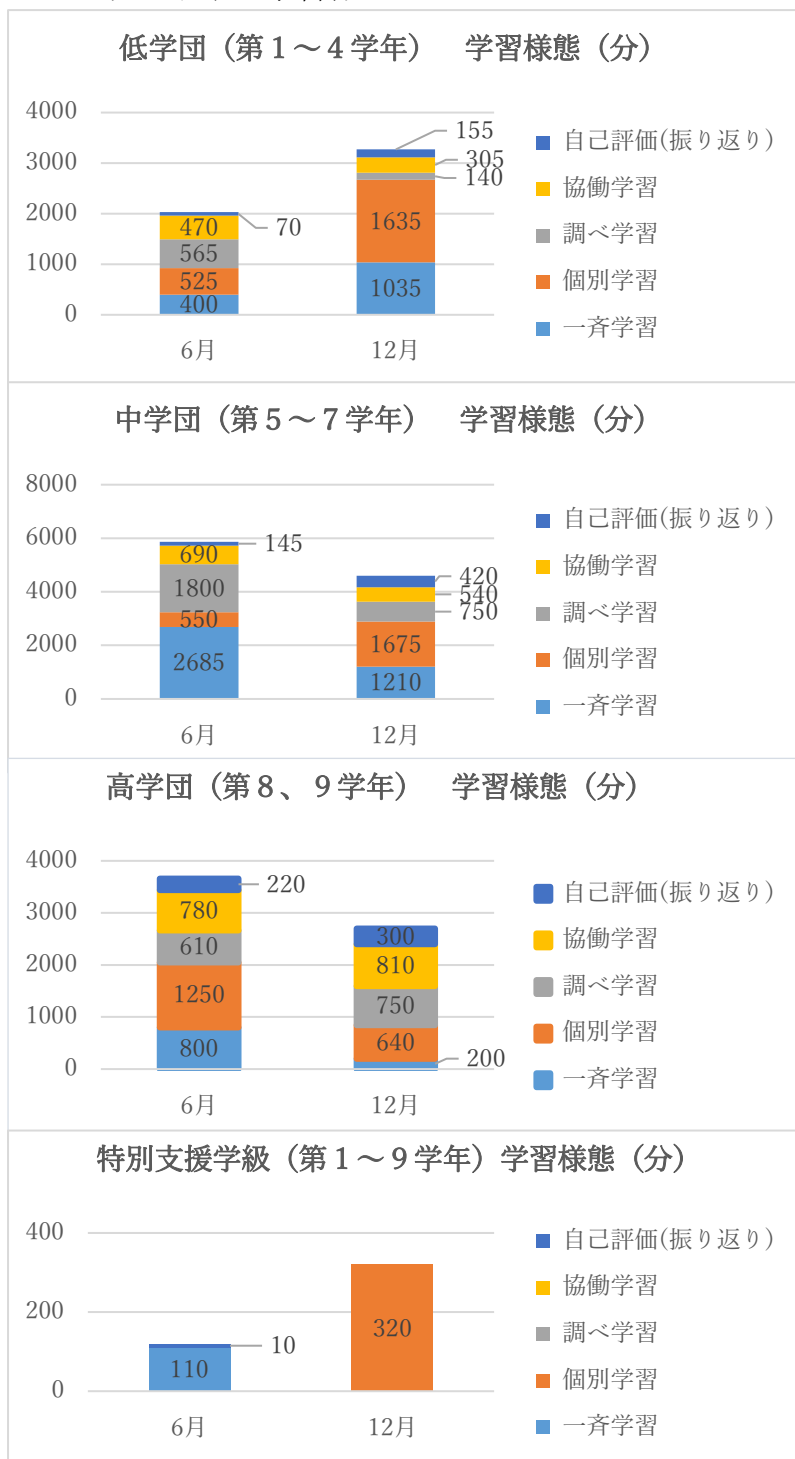
図・美・技・家	主体的に活動に取り組み、積極的に表そうとする児童生徒の育成を目指して
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒が主体的に活動に取り組める題材の工夫 ・思考力・判断力・表現力を育てる指導の工夫 (個々の価値意識をもち、互いの考えを共有しながら、話し合い活動を展開する。) ・指導と評価の一体化を図るための工夫（ICT機器やタブレット端末を効果的に活用する。)
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレットで画像を拡大して細部まで鑑賞することで、絵師の工夫に気付くことができた。 ○考えが進まない生徒も共有された友達の考えを参考に、自分の意見をまとめ考えを広げることができた。 ●教員によってICT機器の活用頻度に差があり、ICT機器の教員一人での活用が難しい場面もある。 ●個人のタイピング能力に差があり、時間内に自分の意見をカードに打ち込めない生徒もいた。 ●互いの考えを共有し自分の考えを深められたが、それらを友達に伝えたり作品として表現したりする場がなかった。

音楽	主体的・創造的に活動に取り組み、協働して音楽を楽しむ児童・生徒の育成を目指して
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒たちが主体的に活動に取り組む教材の工夫 ・言語活動を効果的に設定した授業づくりの工夫 ・学習内容を明確にした指導と適切な評価の工夫
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○パート毎の演奏のポイントを基に、考えた工夫を演奏表現につなげることができた。 ○言葉で伝えたり実際に演奏して見せたりしながら、協働して学習をすることができた。 ●技能面で支援が必要な児童・生徒への手立てを工夫する必要がある。 ●聴く視点を明確にすることで、言語活動をより充実させる必要がある。

体育・保健体育	自ら課題を見付け、考え工夫する力を育てる指導法の工夫 ～ICTの活用を通して～
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を用いて、自分の動きを撮影し、模範と比較し、課題を発見させる。 ・課題の解決に向けた練習方法の工夫 ・ねらいを明確にした指導と適切な評価の工夫
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の動きを撮影し、客観的に見て分析することで、自分の課題をもつことができた。 ○模範動画と自身の動きを見比べることで、改善点を見付けることができた。 ●児童・生徒の学びをより深めていくために、学習課題に応じた適切な言葉掛けや、学習の振り返りの際の教師の助言の内容や方法を考えていく必要がある。 ●児童・生徒自身で練習方法の選択ができるように、学習課題に応じた場を豊富に用意していく必要がある。

特別支援	自分の思いや考えを伝え合う力を伸ばし、自己肯定感を高める指導法の工夫
テーマを実現するための手立て	<ul style="list-style-type: none"> ・互いに伝えたい、聞きたいという意欲が高まる活動の設定 ・発達段階に応じた伝え方の工夫 ・自己肯定感を高める評価方法の工夫（評価計画、ワークシート等）
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ内でアドバイスをし合う活動を取り入れたことで、相手の気持ちを考えた伝え方が少しずつできるようになってきた。 ○身振りや表情カード（うれしい、悲しい、困っているなど）やヘルプカードの提示、ロイロノートの活用など、多様なコミュニケーションの手法を取り入れたことで、一人一人の実態に応じたコミュニケーション能力を高めることができた。 ●さらに自己肯定感を高めていくために、個人内評価をどのように行っていくか、考えていく必要がある。

タブレット端末の学習様態について



【学習内容】

タブレット端末の活用時間が増え、特に個別学習の活用が増えた。授業で学んだことや考えたことを文章や表にして、全体で共有することなどに活用している。また、第3学年ではポートフォリオとして学習の振り返りに活用した。

【学習内容】

調べ学習や一斉学習としての活用から、個別学習での活用が増えた。自分の考え方を図や表を用いて表現することや、個別の問題演習に活用している。また、第6学年では卒業文集の執筆にエクセルを使用した。

【学習内容】

個別学習や一斉学習としての活用から、協働学習や調べ学習での活用が増えた。その結果、生徒同士での学び合いの場面を多く設定することができた。

【学習内容】

一斉学習としての活用から個別学習での活用が増えた。調べたことを写真や言葉でまとめたり、栽培活動で植物の生長を記録したりする際に活用している。体育では、演技の動画をもとに自分自身で振り返ったり、互いにアドバイスし合ったりする際に活用している。

【成果と課題】

成果①個別学習の割合が増えた。タブレット端末の活用を個別最適な学びに結び付ける授業が増えたためと考える。

②一斉学習の割合が減った。教師主導の授業展開に課題があることを教員が自覚することができた。

課題①協働学習への活用が増加しなかった。協働学習でタブレット端末を活用する授業だけではなく、ホワイトボードや付箋を使う授業もあった。

②学団によって、タブレット端末の活用頻度に差が出てしまった。各教科の特性を踏まえながら、各学年における効果的な活用法を検証していく必要がある。

研究の成果と課題

【成果】

- 3年間で9教科の研究授業を行い、それぞれの教科の特性を生かした効果的な指導法や評価方法について分科会ごとに検討し実践することで、児童・生徒の資質・能力を伸ばすことができた。
- 市民科分科会では、各学団ごとに研究テーマに沿った研究授業を行い、それぞれの発達段階に応じたコミュニケーション能力の育成について、研究を深めることができた。
- 教員全員が研究テーマに沿った研究授業を行うとともに、年間2回以上の相互授業参観を行ったことで、教員一人一人の指導力の向上につなげることができた。

【課題】

- 評価と指導の一体化を目指した授業を研究してきたが、教師主導の授業展開になってしまうことが多かった。児童・生徒の主体性を促す支援のもと、子どもたちの自律した学びの育成を実現するための手立てを考えていく必要がある。
- 本校におけるICTの活用状況を調査する中で、学年や教科において活用状況に大きな差が見られた。来年度は、各学年や各教科に応じた効果的な活用法を検討していくとともに、探求的な学びにおいてどのような活用が可能かどうか、研究を深めていく。

おわりに

副校長 高橋真美

令和3年度から3年間、「指導と評価の一体化を図った授業改善」を副主題として校内研究を行い、今年度はまとめの年となりました。小学校・中学校といった枠を超えた、義務教育学校ならではの教科分科会を構成し、学習内容を明確にした指導と適切な評価の工夫を目指しました。市民科分科会では、低・中・高学団と特別支援分科会に分かれ、コミュニケーション能力の育成を図りました。これまでの成果と課題を基に、今後も授業改善に取り組んで参ります。

最後になりましたが、研究を進めるにあたり、ご多用の中ご来校いただきました講師の先生方や品川区教育委員会の皆様から、ご指導やご助言ご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

今年度ご指導いただいた講師の先生

矢野 勝義 先生	東京都立矢口特別支援学校 元校長	理科分科会 研究授業
黒澤 有貴 先生	品川区教育委員会 指導課 指導主事	保健体育科分科会 研究授業
石黒 晋 先生	品川区立富士見台中学校 校長	図工・美術・技術・家庭科分科会 研究授業
羽鳥 紀子 先生	品川区教育委員会 指導課 教育アドバイザー	音楽科分科会 研究授業
浅木 麻人 先生	品川区教育総合支援センター 教育アドバイザー	市民科研究授業 (低学団分科会)
森下 久仁子先生	品川区立八潮学園 副校長	市民科研究授業 (中学団・特別支援分科会)
青木 経 先生	品川区教育総合支援センター 教育アドバイザー	市民科研究授業 (高学団分科会)
益川 弘如 先生	聖心女子大学 現代教養学部教育学科 教授	講演会 「探求的な学びを充実させた授業づくりと9年間の一貫を意識した資質・能力の育成に向けて」

